

こまき市民文化財団情報誌

みんなで育てよう、こまきの文化

こまき文化

秋冬

2021.11

文化を未来へ。

アート・コレクティブ
SIDE CORE

サウンドアーティスト
川崎義博

「SIDE CORE -RODE WORK-」 展示風景より
EVERYDAY HOLIDAY SQUAD 「Rode work」
(Reborn-Art Festival 2017) Photo: Shuji Goto

文化・芸術を届ける／文化・芸術にふれる

サンデーコンサート／バリアフリーコンサート
ワークショップ／学校アウトリーチ

ようこそ！伝統芸能の世界

黒田鈴尊 吉田兄弟 桂南光

EVERYDAY HOLIDAY SQUAD 「Rode work」 撮影風景
Photo: Nampei Akaki

「Reborn-Art Festival 2017」(宮城県)での展覧会で発表した映像作品。(詳細は P01 掲載)



現代芸術企画展

アーティスト
インタビュー場所へのまなざしが
ストリートとアートをつなぐアーティスト
松下 徹さん
(SIDE CORE)

ストリートカルチャーを切り口に様々なアートプロジェクトを展開するアート・コレクティブ「SIDE CORE」の展覧会を、2022年2月に中央図書館にて開催します。そこで、メンバーの松下徹さんにお話をうかがいました。



—SIDE COREはどのようなアート活動を展開しているのでしょうか？

SIDE COREは高須咲恵、松下徹、西广大志の3人によるアートチームで、現代美術の視点からストリートアートを読み解き、様々な展覧会やアートプロジェクトを企画・開催しています。僕たち3人以外にも、プロジェクトごとにアーティストが流動的に参加して、共同制作したり、それぞれの作品を一緒に発表したり、コミュニティやネットワークのようなイメージでアート活動を展開しています。

—ストリートアートを軸とした作品づくりで欠かせないことは何でしょうか？

表現する場所がどういふ場所か、作品がその場所とどのように結びつくか、場所を見る視点が重要。視点を変えること

で、場所の隠れた特性も見えてきます。場所に対するリサーチをもとに、場所にある面白い物事を読み取っては作品制作をしています。

—夜の街を歩き、

面白い建物やグ

ラフイティなど、

街中にある物事をストリートアートの視点で鑑賞する

「MIDNIGHT WALK tour」もされていますね。

普段から作品づくりのために、街のグラフィティを見ながら街歩きしていたんです。この行為自体が面白いので、参加者を募ってやるようになったのが始まり。2020年にはツアーの様子を映像作品にまとめました。主に渋谷でやっているのですが、青森や石巻でも開催しました。普段気づかないような場所の個性や歴史など、見るべきものは常にあります。

—多岐にわたるアート活動の中、印象深い展示はありますか？

2017年に参加した宮城県石巻市の「Reborn-Art Festival」での展覧会は、地元のスケーターたちが震災で壊れた倉庫を借りて、当初遊び場がない子どもたちのためにセルフビルドしたスケートパークが会場でした。しかし、消防法によって開催直前に利用できなくなりました。そこで急遽、パークの外に工事現場に見立てたスケートパークを作り、パークに通う中学生たちが作業着姿でスケートボードをする映像作品を制作。それをパーク内で展示するインスタレーション（今号のこまぶん表

SIDE CORE 「rode work」

(Reborn-Art Festival 2017)

Photo: Shuji Goto



EVERYDAY HOLIDAY SQUAD 「rode work」

※今号のこまぶん表紙を飾った映像作品

森田貴宏
「line wave」

スケーターで映像作家の森田貴宏さんは、スケートボードができなくなった展示会場の周りに津波をモチーフにした細長いスケートコースを作りました。

森田貴宏氏による
映像作品
「rode work」は
こちら！



SIDE CORE 「地球 神宮前 空き地」

(ワタリウム美術館「水の波紋展2021」より) Photo: Shuji Goto



EVERYDAY HOLIDAY SQUAD 「TIME GATE」

国立競技場のすぐ近く、東京五輪に向けて建物が壊されたが、コロナ禍で用途が決まらず空地になっていた空間に、複数のアーティストの作品を展示して、巨大インスタレーションを構成した。



Photo: Shin Hamada

Profile SIDE CORE

2012年に高須咲恵(中央)と松下徹(右)により発足。2017年より西广大志(左)が参加。都市や地域でのリサーチをベースに作品制作。壁画プロジェクトや、街を探索する「MIDNIGHT WALK tour」などを開催。主な展示に「Reborn-Art Festival」(宮城県石巻2017/2019)「大京都芸術祭」(京丹後2020)など。

—2022年2月の「現代芸術企画展」の会場は図書館です。

図書館は、新しい視点を得ることができる場所、いろんな時代の、いろんな文脈の知識が結集している場所です。その場所にふさわしい展示にしたいと思っています。あと、小牧の街を歩いて僕たちの視点で面白いものを探すこともやってみたいです。

地球に耳をすますことで 生まれるアートがある

川崎義博さん

サウンドアーティスト・サウンドデザイナー

一流のアーティストを講師に迎え、様々なアプローチでアートを学ぶことができる「芸術文化講座」。2021年11月にファッションデザイナーでCOCONAGOCO代表の山縣良和さん、2022年3月にはサウンドアーティストの川崎義博さんを講師に招き開催します。そこで今回は、川崎義博さんに音とアートをめぐるお話をうかがいました。

—川崎さんは、日本のフィールドレコーディングの草分け的な存在で、世界各地でフィールドレコーディングをされています。

1990年に衛星放送を通じて24時間、音楽と自然音を流す放送局「セント・ギガ(St.GIGA)」が開局しました。当時、自然音や環境音を収録したCDなどはわずかし



Profile 川崎義博

1990年、衛生音楽放送 St.GIGAの開局と同時に世界各地でフィールドレコーディング。CD「知床」「バリ島」など13作品。J-WAVEなど番組制作も多数。日本科学未来館、東京都写真美術館、金沢21世紀美術館で世界の音のインスタレーション作品を制作。東京藝術大学などで音の表現を教えられていた。



川崎さんのサウンドインスタレーション作品
《伏流 / quiet underflow》2011年

なく、このセント・ギガの番組制作のためロケ隊を編成、世界各地でフィールドレコーディングして世界の音をアーカイブしていくことを始めました。

—印象的なフィールドレコーディングの思い出をお聞かせください。

カリブ海のマルティニーク島で、ガイドが猛毒ヘビのいるジャングルに入るのを嫌がり一人で音を録りに行ったこともありましたが、チュニジアの砂漠で方角が分からなくなったこともありましたが、マイナス20度の極寒の知床で、流水が接岸する音を録ったのも思い出深いです。

—川崎さんがサウンドアートを制作するようになったきっかけは？

1990年、アメリカの国際的なサウンドアーティスト、ビル・フォントナナ作品展示のために技術サポートを頼まれ、京都市内16カ所を音を集めたインスタレーションの制作に関わったのが最初です。その後海外アーティストが来日するとお手伝いをして、アートの世界に踏み込んでいきました。僕は大学でアートを専門的に学んだわけではなく、様々なアーティストと作品づくりをする中でアートを学んできました。亡くなったドイツのサウンドアー



パシェ音響彫刻「勝原フォン」
1970年の大阪万博でフランソワ・パシェが制作・展示した音響彫刻(彫刻と楽器の要素を備えた音の鳴るオブジェ)。2017年、川崎さんは修復プロジェクトの責任者としても活躍しました。

—街中でイヤホンをして音楽をよく聴いていますが、いろんな音を遮断していることになりませんか。
まずは閉ざした耳を開いて、様々な音を聴いてみましょう。地球に耳をすましてみるのです。音そのものの存在に気づき、その音を持つ意味や背景を積極的に考えてみる。そこから、音を持つ新たな意味や関係性が生まれ、新たなアート作品が立ち上がることもあるはず。

ティストのロルフ・ユリウスや、鈴木昭男さんなどは、親友であり師匠でもあるのです。

—川崎さんが考えるサウンドアートの魅力とは？
サウンドアートでは、作品を体験して自ら能動的に関わっていくことが重要です。音を聞くことで五感を呼び覚まして、もの

の見方、感じ方が変わっていくのがサウンドアートの面白いところだと思います。

—意識的に音に耳を傾けることで世界の見え方が変わるというのは、音を環境の中で風景として捉えるサウンドスケープの考え方にもつながりますね。
私たちは日常生活の中で多くの音に囲まれて暮らしています。鳥や虫の声、風の音、自然音だけでなく、街のざわめき、自動車やエアコンの音など、いろいろな音があふれています。しかし、そうした音を聞くことなく耳を閉じて生活しています。それが日常化すると、音の存在に気づかず、感性すら鈍くなっていきます。

川崎さんが録音した世界の森の音



知床オータムフェストトークイベント「世界の森から知床へ」より。森の音は10'08"頃から。

身近な場所で文化・芸術にふれ、親しむことができる機会として
様々なコンサートを企画して、音楽を届ける活動を行っています。

**サンデー
コンサート**

年5回、東部・味岡・北里の各市民センターを
会場として、多彩な音楽が気軽に楽しめる
無料コンサートを開催しています。



過去のサンデーコンサートの様子



コンサートを開催し、今年で24年になります。



尾関佳奈（ピアノ）

サンデーコンサートがいろんな音楽を聴くきっかけとなるといいですよ。

—サンデーコンサートをやっていて、どんなときに喜びややりがいを感じますか？

尾関 やはりアンケートでお誉めの言葉をいただいたりすると嬉しくなります。

新屋 何度もコンサートに来てくださっている方もいて「新屋さんだよね、今度見に行くね」と、街中で声をかけていただけるのも、すごく嬉しい。

—サンデーコンサート以外でも、音楽を届ける活動を行っていますね。

新屋 あさひホール（まなび創造館）で年1回「モーニングコンサート」を開催するほか、毎月第1日曜日には味岡市民センターでロビーコンサート「ふれあい音楽広場」を行っています。

尾関 ロビーが会場の場合、通りすがりに1曲だけ聴いて帰ることもできますし、ホールでの公演は子ども連れだと難しいという方も、気軽に音楽を楽しんでいただけたらと思います。

—サンデーコンサートは、いつから始まったのですか？
新屋 1997年1月に小牧の音楽文化の向上を目指し、小牧市教育委員会の呼びかけで「ポルタメント小牧」が結成されました。結成当初から、市民のみなさんに身近に音楽に触れていただけるようサンデー



新屋千夏（ピアノ）

良質な音楽をもっと身近に

サンデーコンサートでの演奏はもちろん、企画も行っているのが、小牧市を中心に活動する音楽家のグループ「ポルタメント小牧」です。そのメンバーで、ピアニストの新屋千夏さんと尾関佳奈さんのお二人にお話をうかがいました。

—9月のサンデーコンサート（緊急事態宣言延長で公演中止）は新屋さんの企画でした。
新屋 5年に一度のシヨパン国際ピアノコンクールが開催される時期でしたので、コンクールの話題にも触れながら、シヨパンの楽曲を演奏することで、みなさんがシヨパンの音楽に興味を持ってもらえるようならばと思つて企画しました。

新屋 地域に根ざした音楽活動で、今後市民のみなさんが音楽を身近に楽しむことができるよう、さらなる企画の充実、演奏技術の向上に励みたいと思っています。



バリアフリー コンサート

障がいのある方もない方も、大人も子どもも、
誰もが安心して気兼ねなく音楽を楽しむことが
できるコンサートを開催しています。

過去のバリアフリー
コンサートの様子



会場には
授乳スペースも
ご用意!

年齢や障がいの垣根を越えて

障がいのある方や、そのご家族、福祉施設の関係者等のみなさんに、気軽に音楽を楽しんでいただこうと2018年度から始まった「バリアフリーコンサート」。

4回目を迎える今年度は、障がいの有無も年齢も関係なく一緒に楽しめる参加型コンサート！同じ演奏を見て・聴いて・体験して、感じ方はそれぞれ違っても音楽を通して共感し、お互いの理解を深めて心をつなぐ、そんなコンサートを開催します。そこで、今回出演する打楽器奏者の方々に、コンサートへの想いなどを語っていただきました。

——「バリアフリーコンサート」
に出演されることになった経
緯を教えてください。



高橋正実（パーカッション）



近藤幹夫
（マリンバ・パーカッション）

高橋 僕が演奏するマリンバは、木の音板を鳴らす鍵盤打楽器です。現在作られているマリンバで最大級の音域のものも用意するので、聴いたことがない音の響きを感じてもらえると思います。マリンバとパー

カッションのアンサンブルを楽しんでほしいですね。

美郷 マリンバの音の響きは、どんなに大きな音を出してもやさしく、木の温もりを感じさせてくれます。

松尾 打楽器の音の響き、振動を全身で感じてください。打楽器は種類がたくさんあるので、打楽器アンサンブルでは音の響きの多様さも感じてもらえると嬉しいです。

高橋 観客のみなさんも身体を打楽器として使い、一緒に手拍子や足踏みをして、楽しんでもらいたいです。

——バリアフリーコンサートへの意気込みをお聞かせください。

近藤 バリアフリーな演奏会に、意味深さとやりがいを感じています。ぜひ、みなさんに楽しんでもらえるような演奏をしたいと思っています。

高橋 料理は一人で食べるより、みんなで食べた方が美味しいですよ。音楽も同じ。みんなで聴いて、音楽の楽しさを共有してもらえればと思います。

松尾 心いっぱい、身体いっぱい、音楽を感じていただきたいですね。

美郷 打楽器の音楽って自然と身体が動いちゃうものです。みんなで身体を動かし、生の演奏ならではのドキドキ、ワクワクを感じて、楽しんでもらえればと思っています。

私たちが音楽をお届けします!

子どもたちに文化・芸術の楽しさや豊かさに直接ふれてもらえるよう、ワークショップや、市内小中学校でのアウトリーチを積極的に行っています。



かぶりものアーティスト
ニシハラ☆ノリオ



子どもたちが作ったかぶりもの

かぶりものワークショップ

ワークショップ

多様なジャンルのアーティストとともに創作や表現の楽しさを体験して、文化・芸術に親しむ、学びと創造の場を提供しています。



過去のワークショップの様子

かぶりものアーティストのニシハラ☆ノリオさんが2022年2月26日、小牧で子どもたちと一緒に「かぶりもの」を作るワークショップを開催しました。ニシハラさんにお話をうかがいました。

— どのようなワークショップになるのでしょうか？

新聞紙と色とりどりのガムテープで、子どもたちに「かぶりもの」を作ってもらいます。何を作ってもよく、ルールはありません。テーマを設けるにしても、例えば「小

かぶりものは非日常的で、かぶることで見る側から見られる側へ変化して作品の一部になるのが楽しい。ワークショップでは、作ったかぶりものにタイトルをつけてもらうのですが、それがまた、誰にも真似できないものばかりで面白い。ぜひ、一緒に作って、かぶりましょう。

— ニシハラさんが、かぶりものを作るようになったきっかけは？

26年前に日本テレビの美術制作会社に入社して「世界まる見え！テレビ特捜部」という番組でビートたけしさんの着ぐるみ制作を10年間担当。さんまさんやダウンタウンさんの番組でも、かぶりものなど小道具を制作していたんですが、テレビ業界は過酷で、結婚を機に会社を辞めました。それから作家活動を続けています。

— かぶりものの魅力とは？

— 作りながら作ろうとするものが変わっていく、そんな自由さを楽しめばいいわけですね。

どんどん脱線して、作っているものが長くなり、かぶれなくなってもいい。常識からはみ出して欲しいんです。何か分からないものを作るのが面白い。

「牧を作ろう」と、大きな括りにします。お手本にするものではなく、何を作ってもいいか分からなくても、とりあえず、やってみる。新聞紙をまるめて、ガムテープをべたべたと貼って、手を動かしてうちに、見たことのないものが生まれてきます。



トカゲをモチーフにした、ニシハラさんの作品

新聞紙とガムテープで

どんなかぶりものができるかな!?



ニシハラ☆ノリオ

Profile

かぶりものアーティスト。1995年より美術制作会社で数多くのテレビ番組のかぶりもの制作を手がける。2004年より個人での作家活動を開始、国内外で展示会やワークショップを開催。舞台芸術団体「山猫団」では舞台美術全般を担当。



新聞紙で頭のサイズの輪を作ります。



かぶって鏡でチェック!



そこに、まるめた新聞紙で形を作り、ガムテープを貼っていきます。



新聞紙が見えなくなるくらいガムテープを貼ったら…。



最後にタイトルをつけましょう!

一流のアーティストが小中学校にやってくる!

学校アウトリーチ

各分野で活躍するアーティストが市内の小中学校を訪ねて、子どもたちに文化・芸術に親しむ体験を提供しています。

ダンスで自分を表現!

コンテンポラリーダンスの アウトリーチの様子

2019年10月16日
篠岡中学校で2年生が参加
長井江里奈(山猫団主宰・ダンサー)
北園優(音楽家)



参加者の声

言葉を伝えるのが苦手な生徒が、身体で表現するのがあんなに上手だとは…。生徒たちの新しい一面を見ることができました。(中学校教員)

ダンスは自分の気持ちを身体の動きで表現するもの。たとえ、おかしな動きでも「こんな感じで踊ったらいいかも」と、自分の表現を発見できました。

また、演技を誰かに見せるのは恥ずかしいけれど、今回、人前で踊ることができた大きな自信にもなりました。この体験を活かし、これからも自分らしさを大切にしたいと思いました。(中学2年生)



山猫団

ダンサーの長井江里奈を中心に、音楽家、絵描き、造形作家、照明家、音響、舞台監督、衣装作家、写真家からなる舞台芸術団体。独創的な舞台公演やワークショップ、アウトリーチなどを全国各地で展開している。

公式ホームページ <http://ynd.tokyo/>

2022年3月5日(土)
山猫団 新作公演「それでも、踊る」

会場/市民会館



新作公演への意気込みを語っていただきました。



コンテンポラリーダンサー
長井江里奈

——山猫団の小牧公演は、もともと2020年3月に開催予定だったとか。
新型コロナウイルス感染拡大で、公演の10日前に中止が決まったんです。本番に向けて練習してきたものを、人前に出さずに終わったのが初めてで…。ショックで数日動けなかったですね。

——公演中止から2年、2022年3月に改めて小牧公演が開催されます。

世の中は変わって、劇場に行くハードルもあがりました。足を運んでくださったお客様に生半可なものが見せられない。もともとはお客様に近い距離で踊るのが好きですが、今は発想を変えて、何もない舞台からダンス作品が生まれていく様子を観ていただくことを考えています。とはいえ、どうしてもふざけた要素をいれたくなっちゃう性格なので、そこもお楽しみに(笑)。

——山猫団の舞台では、現実からはみ出した非日常に出会えそうですね。

言いたいのに言えないこと、やりたいのにできないこと、そんな「不足」を埋める場になれば。面白いと思うことが人生には必要です。だまされたと思って山猫団の舞台へ足を運んでみてください。

必見! 謎の全方位型パフォーマンス集団「山猫団」の新作公演「それでも、踊る」
アウトリーチで小牧の子どもたちと交流した、ダンサーの長井江里奈さんが主宰する「山猫団」が、2022年3月5日に市民会館で公演を開催します。公演への想いなどを、長井さんにうかがいました。

長井江里奈

Profile
舞台芸術集団「山猫団」主宰・ダンサー。「伊藤キム+輝く未来」「まことクラヴ」にてダンサーとして国内外の劇場のみならず、ライブハウス、美術館、商店街、廃墟などでパフォーマンスを行う。2011年よりソロパフォーマーとして活動を開始、2013年に山猫団を結成。



邦楽コンサート 黒田鈴尊 × LEO ～尺八と箏の競演～



—尺八のどういった点に惹かれたのでしょうか？

尺八は一本の竹から作られた原始的でシンプルな楽器で、吹く人によって音が変わる無限の可能性を持っています。また、尺八は人の声に一番近い楽器とも言われていて、歌うように吹くことができると！音程や音色の変化も自分の声のように自在に作れるのが魅力です。

—2019年に文化庁の文化交流使として、世界各地で演奏やワークショップをされました。

2カ月間で、中国、イタリア、ブラジル、フランス、ドイツ、ポルトガルの6カ国16都市をまわり、日本の古典の魅力を発信するとともに、いろんな国々で作曲家に曲を作ってもらい、その国の音楽家と共演させていただきました。

—まず、尺八との出会いを教えてください。
幼少からピアノを学び、音楽が好きでバンドやDJもやっていたのですが、20歳の夏に武満徹さん作曲の「ノヴェンバー・ステップス（尺八、琵琶とオーケストラのための音楽作品）」を聴き、脳みそがひっくり返るほど感動しました。尺八を始めたいという思いで、近所にあった尺八販売店に行くと、偶然にも近くに人間国宝の青木鈴慕先生のお宅があるというので、プロになるつもりで門をたたきました。

イタリアでは弦楽とコラボして、フルートの四重奏曲を演奏しました。ブラジルのアリーナ級に広い会場で行った独演会では、一番盛り上がったのが日本の歌謡曲や童謡だったのも印象深いです。言語の壁を越え、音楽でひとつになれたことに感動しました。

世界 芸能の統



吉田兄弟コンサート THE YOSHIDA BROTHERS

国内外で活躍する津軽三味線奏者、吉田兄弟が12月に市民会館でコンサートを開催します。若手実力派のお二人をお話をうかがいました。

—津軽三味線の伝統を継承しながら、ジャンルを超えたコラボにも積極的ですね。

津軽三味線を身近に感じてもらうには「伝統と革新」が必要です。革新的な部分を見せることで、伝統的な楽曲の良さも感じてもらえると思っています。



吉田健一

—ライブでは「津軽じょんがら節」が必ず演奏されます。

アドリブが基本の津軽じょんがら節は奏者の感性を問うような曲で、気が抜けません。観客の反応で変化していく、会話のような演奏をお楽しみいただきたいです。

—今後チャレンジしたいことは？

これから三味線を始めたい人たちのための環境づくりです。そして、海外での音楽活動も力を入れていきたいです。津軽三味線は世界に広がる可能性を持った、日本の素晴らしい楽器だと信じています。

—小牧公演はバンド編成での演奏ですね。津軽三味線という吹雪や荒波を思い浮かべる方が多いのですが、他の楽器との演奏で、それだけではない津軽三味線の可能性を感じていただきたいです。



吉田良一郎

Profile

吉田兄弟

兄の吉田良一郎、弟の吉田健一による津軽三味線奏者ユニット。ともに5歳から三味線を始め、幼少期から数々の賞を受賞。1999年アルバム「いぶき」でデビュー。2003年の全米デビュー以降、世界各国での演奏活動や、ロックやクラシックなどのコラボレーションも積極的に行う。

— 古典はもとより、オーケストラや電子音楽との共演など、新しい音楽的な試みにも積極的です。

観客のみなさんと一緒に旅をするイメージで尺八を演奏しています。いろんな旅を、いろんな音楽ジャンルでしたいと思ひ、新しい表現にトライしています。尺八は、古典も現代音楽も演奏できる多様さ、幅広い魅力を提示できる楽器です。今後も古典に磨きをかけながら、独奏でもコラボでも新しい音楽を追求していきたいです。

— 小牧での邦楽コンサートは、箏奏者のLEOさんとの共演になります。

LEOさんは、同時代の作曲家と新しい音楽づくりをしたり、演奏する楽曲選びもいつも面白いなと思っていて声をかけたのが共演の始まりです。古典はもとより、現代的でエキサイティングな演奏もできるアーティストだと思います。



©JCOM 浦安音楽ホール

Profile

尺八奏者 **黒田鈴尊** れいそん

1983年福島県生まれ、東京都出身。人間国宝二代青木鈴慕、三代青木鈴慕の両氏に師事。早稲田大学人間科学部、東京藝術大学音楽学部卒業。同大学院修士課程修了。第2回利根英法記念邦楽コンクール最優秀賞受賞、国際尺八コンクール2018 in ロンドン優勝。



©日本コロムビア



©Ayane Shindo

箏奏者 **LEO**

1998年横浜市生まれ。カーティス・パターソン、沢井一恵の両氏に師事。16歳でくまもと全国邦楽コンクールにて史上最年少で優勝。2017年、19歳でファーストアルバム「玲央 1st」でデビュー。「情熱大陸」「題名のない音楽会」など多くのメディアにも出演。

— 小牧公演は、どのようなステージになりそうですか？

尺八と箏のアンサンブルを楽しんでいただける邦楽の名曲「春の海」をはじめ、古典から現代邦楽、クラシックの名曲までも。そして、ときにロックのように激しく、ジャズのようなグルーブも感じさせたり、尺八と箏の多彩な魅力を感じていただける演奏にしたいです。



ようこそ！伝



駒来落語会
桂南光 独演会



桂南光

Profile
桂南光

1951年、大阪府生まれ。1970年に故・桂枝雀に入門。桂べかこの芸名でお茶の間の人気者に。1993年に三代目桂南光を襲名。上方お笑い大賞など、受賞歴も多数。米朝一門を牽引するベテランとして、舞台だけでなく、テレビ、ラジオなど幅広く活躍中。

2022年1月は、味のある声と軽快な語りで初笑い！北里市民センターで独演会を開催する、上方落語の大看板・桂南光師匠にお話をうかがいました。

— 2020年に芸能50年を迎えられました。落語も知らずに、この世界に入り、師匠枝雀のおかげで今日まで噺家が続けさせていたでいることに、ただ感謝あるのみです。

— 2021年に古希記念の独演会を全国20カ所以上で開催。創作落語や、江戸落語を上方落語に仕立て直すなど、ますます意欲的に落語を追求されている桂南光師匠が、思い描く理想の落語家像はありますか？
理想は何もしゃべらないで座っているだけで、お客様に喜んでいただくことです。



桂南天

— 桂南光師匠が考える、上方落語の魅力、面白さとは？
お客様それぞれの受け取り方が違うので、面白いと思ってくださるセンスのいい方に出会いたいです。

— 落語を演じる上で大切にされていることを教えてください。
よりイメージーションがふくらむように、言葉を選んでいきます。



桂天吾



桂そうば

こまじん!



クラウン（道化師）
オーバートーン
（クラウン潤さん・クラウンカノンさん）



語るカノンさん。

彼女のアイデアで生まれたのがオーバートーンの代表的な演目「走るピアノ」です。ピアノと三輪車が合体した「走るピアノ」を、走る

音楽とパフォーマンズで魅せるクラウンコンビ!

しっかり者だけとおこりんぼうなカノンと、マイペースでのんびり屋の潤によるクラウンコンビ「オーバートーン」。それぞれクラウンとして活動していた二人がコンビを組んだのは2006年、お互い楽器演奏が得意で一緒にネタを作るようになったのがきっかけです。

「コンビ名のオーバートーンは音楽用語の『倍音』で、『調子っぱずれ』という意味もあるのを知り、決まりました」

楽しい音楽演奏とコミカルなパフォーマンスが見事にリンクする音楽ネタは、見る者の心をほっこりさせてくれます。そこで使われる曲は、潤さんが作曲したオリジナルです。

「選んだ曲に合わせて動きを決めるのではなく、動きを決めて、それに合う音楽を作る。オリジナル楽曲だとパフォーマンスを優先できるのが強みです」と



「クラウンとして47都道府県でパフォーマンスしたことがあるので、次は走るピアノで日本全国を訪ねたいです」

2021年11月14日（日）
ワクティブこまき（こまき市民交流テラス）
1周年イベントに出演!

オーバートーン公式ホームページ <https://www.clowncanon.com/>

文化の守り人

小牧市音楽連盟 会長
ごとうたかふみ
後藤孝文さん



会長の後藤孝文さん。中学生から始めた吹奏楽を、高校、大学と続け、中学校の教員になってからは吹奏楽部の顧問として活躍。同時に小牧市民吹奏楽団で演奏活動を続けながら、小牧の音楽文化向上に尽力してきました。

小牧市内の様々な音楽団体が演奏を楽しみながら、技術の向上と交流を図るため1986年に設立された小牧市音楽連盟。吹奏楽、ギター、ハーモニカ、大正琴、弦楽合奏といった楽器7団体と合唱10団体の計17の音楽団体が加盟し、その会員数は小牧市文化協会に所属する連盟でもっとも多い253人です。毎年、各音楽団体が一堂に会する「小牧市民音楽祭」

「コーラスフェスティバル」を開催して、日頃の練習の成果を披露しています。「みんな音楽が純粋に好きで集まっています。市民音楽祭の最後には、参加者全員で合唱をするのですが、観客のみならず、みんな合奏にも加わって、会場全体が音楽で一体になる瞬間はいいものですよ」と語るのには、





「私たちができることとは、市民音楽祭のような、音楽の楽しさを知ってもらう機会を充実させ、一緒に音楽を楽しんでももらえる仲間を一人でも増やしていくこと。こうして小牧市に音楽があふれ、身近に音楽が楽しめるような街になっていけばうれしいです」と語る言葉に、音楽への熱い想いを感じました。

2022年2月27日（日）
コーラスフェスティバル
会場：味岡市民センター

2022年7月10日（日）
第31回小牧市民音楽祭
会場：市民会館

11月23日(火・祝) 講座

芸術文化講座1
ファッションってなんだろう?～装うことの愛おしさ～
 会場：中央図書館 イベントスペース
 講師 山縣良和(ファッションデザイナー、coconogacco 代表)
 時間/14:00～17:00頃
 料金 無料
 申込受付中

written afterwards
11th collection "After All"

12月12日(日) 伝統芸能 特集7ページ

吉田兄弟コンサート "THE YOSHIDA BROTHERS"
 会場：市民会館 大ホール
 時間/17:30開演
 料金 S席/5,000円 A席/4,000円
 B席/3,000円
 U25(25歳以下)は各席種の半額
 チケット好評発売中
Message
 小牧で演奏できることを嬉しく思っています。津軽三味線の生音の波動、そして吉田兄弟の伝統と革新を体感してください。(吉田兄弟)



12月18日(土)


中部フィルハーモニー交響楽団 第78回定期演奏会 KOMAKI シリーズ②
こまき第九 2021
 会場：市民会館 大ホール 時間/15:00開演
 料金 プラチナ席/5,500円 S席4,500円 A席3,500円 B席2,500円
 学生席/1,000円(当日窓口にて販売、25歳以下、要学生証提示)
 チケット好評発売中

12月19日(日) 特集3ページ

第140回サンデーコンサート
「北ヨーロッパ音楽めぐり」～不思議の国の調べ～
 会場：味岡市民センター 講堂 時間/14:00開演 料金 無料(整理券不要)

1月15日(土) 伝統芸能 特集8ページ

駒来落語会
桂南光 独演会
 会場：北里市民センター 講堂
 時間/14:00開演
 料金 一般2,500円 U25(25歳以下)1,000円
Message
 コロナのことは、とりあえず忘れていただき、楽しんでお帰りください。(桂南光)



完売御礼

1月30日(日)

中部フィルハーモニー交響楽団 第79回定期演奏会 KOMAKI シリーズ③
飯森のチャイコフスキー生誕180周年記念 3大交響曲ツィクルス3
 会場：市民会館 大ホール 時間/15:00開演
 料金 プラチナ席/5,500円 S席4,500円 A席3,500円 B席2,500円
 学生席/1,000円(当日窓口にて販売、25歳以下、要学生証提示)
 チケット好評発売中

2月5日(土)

米村でんじろうサイエンスショー おもしろ科楽館
 会場：市民会館 大ホール 時間/1回目13:00開演 2回目15:30開演
 料金 前売3,000円 当日3,300円 チケット発売日/2021年11月19日(金)

2月6日(日) 伝統芸能 特集7～8ページ

邦楽コンサート
黒田鈴尊×LEO～尺八と箏の競演～
 会場：味岡市民センター 講堂
 時間/15:00開演
 料金 一般1,000円
 チケット発売日/2021年12月3日(金)
Message
 古典だけでなく、こんな曲も尺八と箏で表現できるんだと、邦楽のイメージを刷新するような斬新でエネルギー溢る一面もお届けします。(黒田鈴尊)





©Ayane Shindo ©日本コロムビア

2月20日(日) 特集3ページ

第141回サンデーコンサート
「かなしきは疾走する 涙は追いつけない」
～モーツァルト 珠玉の室内楽作品群～
 会場：味岡市民センター 講堂 時間/14:00開演 料金 無料(整理券不要)


2月26日(土)～3月6日(日) 美術 特集1ページ

現代芸術企画展
 会場：中央図書館 イベントスペース
 時間/10:00～19:00(予定)
 料金 無料 展示/SIDE CORE
Message
 作品を観てもらおうと同時に、僕たちが小牧の歴史や文化にふれ、小牧という街を発見しに行くのも楽しみです。そして小牧のみなさんが気づかないような面白さを見つけて、みなさんとシェアできたらと思います。(SIDE CORE 松下 徹)



3月5日(土) ダンス 特集6ページ

公共ホール現代ダンス活性化事業
山猫団「それでも、踊る」
 会場：市民会館 大ホール
 時間/14:00開演
 料金 一般1,500円 高校生以下無料(要整理券)
 チケット発売日/2021年12月17日(金)
Message
 小牧で、いま、劇場という空間でしかできない表現にこだわった山猫団の新作、楽しみにしてください。(山猫団主宰 長井江里奈)



【山猫団関連企画】 特集5ページ

2月26日(土) 工作

かぶりものワークショップ
 会場：市民会館 創作室
 講師 ニシハラ☆ノリオ(かぶりものアーティスト)
 時間/14:00～16:00
 料金 参加費200円
 申込受付/2022年1月8日(土)
Message
 新聞紙と色ガムテープだけで、見たことのないカタチのかぶりものを作って、かぶりましょう!(ニシハラ☆ノリオ)





3月12日(土) 音楽 特集4ページ

バリアフリーコンサート
 会場：味岡市民センター 講堂
 時間/14:00開演
 料金 500円 チケット発売日/2022年1月28日(金)



3月20日(日) 講座 特集2ページ

芸術文化講座 2
 会場：中央図書館 イベントスペース
 講師 川崎義博(サウンドアーティスト)
 時間/14:00～16:00
 料金 無料 申込受付/2022年2月12日(土)
Message
 音から生まれるアート作品についての話や、音から環境を捉える話など、世界の音を聴きながら、音のワンダーランドへ踏み込んでいただきます。(川崎義博)



3月26日(土)

中部フィルハーモニー交響楽団 小牧特別演奏会
世界を巡る中部フィルプロムナードコンサート
 会場：市民会館 大ホール 時間/15:00開演
 料金 一般3,000円 学生1,000円(当日窓口にて販売、25歳以下、要学生証提示)
 未就学児500円 チケット発売日/2021年12月22日(水)

メナード美術館

所蔵企画展
風景 What a Wonderful World!
 会期：2021年12月22日(水)まで
 休館日：月・金曜日

メナード美術館コレクション展
 会期：2022年1月6日(木)～4月3日(日)
 *2/21、3/14に一部展示替えを行います
 休館日：月曜日(ただし1/10、3/21は閉館)、1/11・3/22(火)



エドヴァルド・ムンク《浜辺の風景》
メナード美術館 初公開コレクション
「所蔵企画展 風景」にて展示

【閉館時間】10:00～17:00(最終入館は16:30まで)
 【休館日】月曜日(祝休日の場合は直後の平日)、展示替等による臨時休館、年末年始
 【入館料】一般900円 高大生600円 小中生300円
 【お問い合わせ】メナード美術館 【電話】0568-75-5787
 予定に変更が生じることがありますので最新の情報はホームページをご確認ください
<https://museum.menard.co.jp>

※内容は変更する場合があります。詳細はウェブサイト、チラシ等で最新情報をご確認ください。



こまき市民文化財団

チケット予約・購入方法

3つの方法が選べます

WEB でスマートに！

予約

www.komaki-bunka.or.jp

にアクセス

24時間受付



支払

- ・市民会館、市内各市民センター、まなび創造館窓口
- ・セブン-イレブン（※手数料あり）
- ・クレジットカード決済

発券

- ・市民会館、市内各市民センター、まなび創造館窓口
- ・セブン-イレブン（※手数料あり）

窓口 で直接

市民会館（9：00～20：00 月曜日休館）

東部・味岡・北里市民センター

（9：00～17：00 月曜日休館）

まなび創造館

（9：30～17：00

第3火曜日とその前日の月曜日休館）

※月曜日が休日の場合、水曜日休館

※月曜日はチケットのお取り扱いはできません。

電話 で手軽に

0568-71-9700（9：00～17：00 月曜日休館）

支払・発券

- ・市民会館、市内各市民センター、まなび創造館窓口
- ・セブン-イレブン（※手数料あり）

※各公演、発売初日は上記と異なる場合があります。

〈こまき市民文化財団友の会〉アートフレンド小牧

【特典】チケットの先行予約販売&チケット料金の割引

財団主催事業等（市民会館、各市民センター、まなび創造館等）で実施する舞台公演事業等のチケットが対象となります。※一部を除く

チケット料金	割引額
500円超～1,000円以下	200円引き
1,000円超～2,000円未満	300円引き
2,000円以上	500円引き

【その他の特典】ご自宅に情報誌やイベントのご案内をお送りします。

【会員の種類と年会費】

プレミアム会員	スタンダード会員	メール会員
年会費 1,500円	年会費 1,000円	年会費 無料
先行予約・割引購入は 2枚まで	先行予約・割引購入は 1枚まで	先行予約・割引購入なし 最新の情報をお届けします

会員期間は入会日から1年後の月末までとなります。
例）2021年4月15日の入会の場合、2022年4月30日まで

【申し込み方法】

WEBから

こまき市民文化財団ホームページから、ご希望の会員を選択し、必要事項を入力してご登録ください。お支払方法は、クレジットカード決済、セブン-イレブン決済からお選びいただけます。入金確認後、会員証、規約などをご登録のご住所にお届けします。

窓口にて

市民会館、各市民センター、まなび創造館の各窓口で、入会申込書と年会費を添えてお申込みいただくと、その場で会員証を発行いたします。

一般財団法人こまき市民文化財団

TEL：0568-71-9700 〒485-0041 愛知県小牧市小牧二丁目107

営業時間：8：30～17：15 休業日：月曜日、12月29日～1月3日

HP：www.komaki-bunka.or.jp

こまき市民文化財団 検索



Facebook
@bunka.komaki



Twitter
@komaki_bunka



YouTube
チャンネル



こまきで文化の木を育てよう！